学校教育目標:「学び合い　認め合い　たくましく未来をひらく児童の育成」

校長室の窓

富谷市立明石台小学校
校長室だより　NO.3
令和5年10月16日(月)発行

後期始業式講話より

今日から後期が始まります。今の学年も後半となり，それぞれ一つ上の学年や中学生になる準備の期間に入ります。４月に自信をもって次の学年や中学校に進めるよう，目標や目当てを立てて，成長していきましょう。

さて「人・物・時間を大切にする」その中でも特に「人の心を大切にする」ことを今日は考えてみましょう。

目には見えない人の心を大切にするにはどうしたらよいでしょう。相手の心を大切にしていることが目に見える形で伝わるといいですね。

まずは朝の挨拶から目に見えるように伝えましょう。昔々お侍さんの時代，お辞儀や挨拶をすることはあなたの敵ではないという証拠になりました。お辞儀や挨拶をしない人は，敵だと思われることもあったようです。今はそのようなことはありませんが，昇降口前で挨拶運動をしている５・６年生や校長先生は，挨拶をしても黙って通り過ぎる人がいると校長先生のこと嫌いなのかなと，とても悲しくなります。反対に自分から挨拶してくれる人がいるととても元気をもらいうれしくなります。ぜひ朝の挨拶からお互いの心を大切にしていきましょう。相手に対する思いやりの心を目に見える挨拶で表してください。

職員で行った前期反省会の中で，「立ったまま話を聞く機会が減り，じっと立つことができない子供が見られる」という話が出ました。前期終業式と後期始業式では，それぞれ２・３分程度立って話を聞くことに挑戦させました。終業式では１年生にまだ難しい子が数人いたものの，始業式ではほとんどの子供が休めの姿勢で話を聞くことができ，安心しました。しかし終業式で「前へならえ」が上手にできない子がいることが新たに分かりました。コロナ禍で集団行動をする機会が失われてきたことが原因の一つと思われます。後期始業式では早速少し時間を取って練習し，とても上手にできるようになりました。

「友達とのコミュニケーションや相手の気持ちを慮ることが苦手な子が増えているようだ」との話も出ました。こちらもコロナ禍でマスクを付けていたことによる相手の表情から気持ちを読み取る経験の不足が原因の一つとして考えられます。ですが，今年度前期にたてわり活動に取り組んだ成果や朝の校庭遊び開始の成果は十分に表れており，他学年と仲良くする姿や高学年が低学年に優しく接する姿が多く見られるようになってきています。

学校は学習を身に付ける場であると同時に，社会性を身に付ける場でもあります。大勢で生活していく教室では，自分の思いが通らないことも我慢しなければならないこともたくさんあります。発達段階的に自己中心性から抜けきらない低学年にはなかなか難しいことですが，自分から見ている視点だけではなく，相手から見た視点や客観的な視点を取り入れられるようにこれからも支援していきたいと思います。

９・１０月の様子から

日々の出来事については明石台小学校のホームページ「学校ブログ」にも掲載しています。

たてわり活動では，６年生のリーダーから紙芝居の読み聞かせをしてもらいました。その後，教室や校庭で遊びを楽しみました。

４年ぶりにたてわりお弁当も再開しました。感染予防のため席の配置を工夫しながらではありましたが，普段とは違う交流ができました。

学級での読み聞かせを今年度から再開しています。しゃぼんだまさんが学年の発達段階に合わせて選書してくださいます。

学年PTA行事で給食試食会も行えるようになりました。１・２学年が終了し，３学年でも今週実施予定です。

１０月２７日（金）は学習発表会です。学習発表会にも様々なねらいがあります。「お互いの努力を認め合いながら，よりよいものをつくり出す喜びを味わわせる」「表現力を伸ばす」「発表する喜びや協力することの大切さを感じ取らせる」などが主なものです。当日の出来栄えだけでなく，そこに至る過程も大切に指導していきたいと思います。子供たちの様子をご覧いただく中で，一人一人の成長や学年全体の成長が伝わる機会となることを願っています。